

作物名：ねぎ

病害虫名：白絹病（病原：*Sclerotium rolfsii*）



写真1 地際部の菌糸と菌核



写真2 菌核（ナタネ種子状）

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・糸状菌（カビ）による病害で、地際部に白色の菌糸が伸張し、後に淡褐色のナタネ種子状の菌核を多数形成する。多発時にはネギの軟白部が腐敗し、下葉から黄化・萎凋する。

2 伝染源及び伝染方法

- ・土中に埋没した菌糸や菌核が伝染源となる。
- ・多犯性で、ウリ類、トマト、ナス、キクなどを侵す。

3 発病・伝染好適条件

- ・菌糸の発育温度は13～38℃で、適温は32℃である。
- ・高温で土壌が多湿のときに発生しやすいため、夏期に降雨が多いと多発しやすい。

4 防除方法

- ・罹病株は、菌核を多数形成する前にほ場外に持ち出して適切に処分する。
- ・発生初期に農薬を株元に灌注または散布する。
- ・菌核は3～4か月の湛水条件で死滅するため、田畑輪換は有効である。
- ・多量の生わら等の未熟有機物の施用は、病原菌が繁殖して多発しやすいので避ける。

5 出典

(1)参考文献：日本植物病害大事典（全国農村教育協会）
農業総覧 病害虫防除・資材編 第4巻（社団法人 農山漁村文化協会）

(2)写真：宮城県病害虫防除所撮影

（2021年3月作成）